

## 海外研修の感想

### 東北大学病院 初期研修医（2年目） 閻 国珊

東北大学病院初期研修医の閻国珊と申します。3月8日から12日までの5日間、福島県立医科大学医療人育成・支援センターが主催されたシンガポールの海外研修に参加させていただきました。

約6時間半のフライトを終え3月7日19時頃無事にシンガポールのチャンギ空港に降り立ちました。ターミナルから一歩外に出ると気温34℃、湿度も高く、蒸し暑い赤道直下のシンガポールに来たということを実感しました。



3月8日午前8時、シン

ガポール滞在初の朝を迎えました。本日よりシンガポールでは一番歴史ある病院Singapore General Hospital (SGH)での研修が始まりました。9時に病院のPostgraduate Medical instituteでDr Lee Kheng Hockにお会いし、シンガポールの医療事情、SGHの概要についてご説明いただきました。SGHは1821年に創設され、1500床の病床と29カ国出身の約800名の専門医を抱え、また6600名がスタッフとして働いています。年間を通して約7万人の入院患者と70万人の外来患者を治療しています。35の診療科目の他に病院敷地内にはがんセンターや歯科センター、循環器病センターなどの専門施設があり、患者は高度な専門治療を受けることができるようになってきました。30分間の病院紹介を聞いた後、実際の医療現場を訪ねました。病院のキャンパス全体が「清潔で緑に囲まれたガーデン」であることが深く印象に残りました。芝生がきれいに整えられた中庭にはカフェスペースが設けられ、患者とスタッフの憩いの場となっています。太陽の光が降り注ぎ、開放的で明るい雰囲気でした。



院内の掲示板は英語・中国語・マレー語・タミール語の四ヶ国語表示であり、インドネシア、マレーシア、ミャンマー、中東のドバイを含め海外から来た患者を積極的に受け入れています。シンガポールが日本と異なり多民族、多言語、多宗教の国家であると認識させられると同時に、世界の多くの国々から患者を集めることができるという強みがあることもわかりました。午前中に訪れたのは耳鼻咽喉科専門外来、Pain

Management Centre、事故・救急センター (Accident & Emergency Centre) などの六ヶ所でした。リハビリテーションセンターの室内には、当院にもあるような自転車エルゴメーターや物療機器が設置してあり、患者様一人一人が自主性をもってリハビリに取り組まれている姿を目にしました。



事故・救急セン

ター (Accident & Emergency Centre) には、心臓蘇生、急性冠動脈疾患、毒物摂取及び重症外傷等の致命的な緊急事態に対応するため、6床のベッドを配備する「重要治療エリア」があります。また耳、鼻、喉、眼、歯科及び整形外科に関するあらゆる緊急事態にも対応しており、更に、7床のベッドを配備する「緊急心臓ケアユニット (Emergency Cardiac Care Unit: ECCU)」を含む「救急経過観察病棟 (24床)」を有しています。



SGHは第3次救急病院としての役割を持ち、救急外来は年間13万6千名の患者を治療し、手術の数は年間7万8千件に達するとのことに驚きました。また、救急外来の玄関外には、化学剤や生物剤等の有害物質を半自動的に除洗する救急設備である「半自動除洗センター」もあります。総合的に高度な医療技術、豊富な人材そして充実した教育設備を持つ病院との印象でした。



公用語は英語ですが、シンガポール英語は“シングリッシュ”

という独特のもので、参加した研修医はみんな真剣な顔で取り組んで聞いていました。

12時頃見学を終えて全員Postgraduate Medical instituteに戻り、元気な笑顔で食事やお

喋りをしながら午後のプレゼンテーションの発表を準備していました。

シンガポール滞在中 2 日目及び 3 日目は麻酔科と手術室の見学をさせていただきました。

## 7:20 Singapore General Hospital に到着



キャンパス内は静かで、感染症予防を啓発するポスターが飾ってあります。

## 7:30



多少の不安を抱えながら手術室を訪れましたが、麻酔科の陳先生は私たちが暖かく迎えて下さいました。手術室は全28室で、各室ごとに導入室（induction room）が配置され、そこで術前準備、動静脈穿刺、脊髄麻酔、腰椎麻酔の操作を行います。



麻酔科専門医は46名で、さらに研修医は40名以上おり、写真に示されているのはその日の予定手術です。当日は104件でした。



手術室内は広い空

間が確保され、快適な環境で設備面も充実しています。多くの医療情報を一つのユニットに集約した、メディアセンターを併設しています。特に画像情報の管理に力を入れ、高度な医療技術に対応できるようになっています。また、CUSA、術中超音波、CT、MRI診断装置を配置し、高度な手術に対応しています。



皮膚科と整形外科の手術を見学させていただきました。

**12:30** 昼休み 昼食を各自職員食堂で済ませました。メニューは中華料理でした。

**13:30** 週1回のICUカンファレンスに参加させていただきました。



研修医はプレゼンテーションを行いました。英語力の必要

性を強く感じました。本当の英語力がなければ討論や意見交換が出来ないことを痛切に感じ、どうにかして自分も英語でのコミュニケーション力を身につけたいと思いました。

**15:00**

麻酔科の林教授に ICU、PRE-OPERATIVE EVALUATION CLINIC、高圧酸素療法室、抗生剤治療室など病院全体をご案内いただきました。SGHの研修制度もご紹介いただきました。

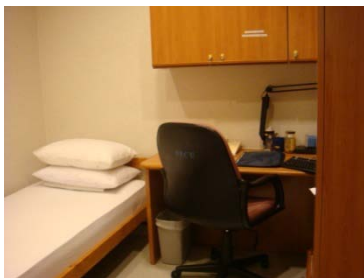


例として、麻酔科に所属されている李先生（卒後6年目）の研修スケジュールは以下のようでした。

卒業～1年目 SHGでローテート： 内科4ヵ月、外科4ヵ月、残りの4ヵ月を産婦人科、小児科など

2年目～4年目 国内6ヵ所の病院の麻酔科に於いてローテート： 心臓外科麻酔、小児麻酔も含め麻酔科研修を行い、4年目の研修の終わりに麻酔の面接試験を受けます。

5年目～7年目 さらに専門性の高い麻酔研修を行います。その間の一年間、アメリカなどで海外研修を受けます。



上の写真に示しているのは研修医の当直室です。立派な部屋でした。（＾＾）

16:40 一日麻酔科研修が終わり、とても充実した一日を過ごすことができました。

今回、初期研修のうちに海外研修に参加させていただき、様々な角度からシンガポールの医療を実感を持って学びました。移民が織りなす多文化社会という特徴を背景とした医療が行われており、医療は教育を含めてとてもレベルが高いと思いました。

また、美術館、博物館、国家図書館の他、動物園、植物園も見学しました。楽しみながら現地の文化を味わうことができました。本研修の関係者の方々や同行の研修医たちのお陰でとても充実した日々が過ごせました。海外での生活の素晴らしさ、日々の生活の大切さ、医師としての将来に対するビジョンを学べた、いいプログラムでした。

最後に、貴重なチャンスを与えてくださったすべての方々に感謝しております。どうもありがとうございました。